

1. 名古屋大学情報メディア教育センターの利用について

受講者アカウント利用可能期間：9月2日（月）～9月20日（金）

受講者アカウント：02act***（*** は3桁の数字）

パスワード変更後使用：後の説明参照

受講者アカウントのディスク使用量の上限：30MB

シミュレーション結果などの大量データ：大容量のディスクに保管
（一人当たり約5GB使用できる）

1.1. 名古屋大学情報メディア教育センターシステムのインターネットからの利用について

情報メディア教育システムは、NICE（名古屋大学キャンパスネットワーク）と民間プロバイダによるインターネットの2箇所に接続されています。これらのインターネットとの接続点にはファイアーウォール装置とルータが設置されています。これらの機器は、インターネットで使用されるグローバルアドレスをメディアセンター内部のプライベートアドレス(172.16.zzz.www)に変換するとともに、いろいろなプロトコルに対してフィルターをかけ、外部からの招かれざるアクセスや、外部への無駄なアクセスを防止します。

1.1.1. メディアセンター内部から外部への通信

原則としてメディアセンター内部から、NICE へはすべてのプロトコルで個別通信が可能、民間プロバイダ向けには限定されたポートで通信が可能です。

1.1.2. 外部からメディアセンター内部への通信

NICE やインターネットからメディアセンターに対して利用可能なのは以下のプロトコル（サービス）です。

1.1.3. プロトコル（NICE からとインターネットから）

telnet（NICE からは）telnet.media.nagoya-u.ac.jp に telnet してください。
（media.nagoya-u.ac.jp には telnet しないでください。ログインできません。）
telnet.media.nagoya-u.ac.jp が反応しない場合は、
telnet1.media.nagoya-u.ac.jp あるいは telnet2.media.nagoya-u.ac.jp
を試してください。
（インターネットからは）利用できません。ssh をお使い下さい。

rlogin 利用できません。

ssh (Secure Shell) telnet サーバ(telnet.media.nagoya-u.ac.jp または
telnet.rt2.media.nagoya-u.ac.jp)のみに接続可能です。NICE から利用する場合は、必ず、telnet.media.nagoya-u.ac.jp を使ってください。
telnet.media.nagoya-u.ac.jp が接続できないときは、
telnet1.media.nagoya-u.ac.jp または telnet2.media.nagoya-u.ac.jp を 試してください。

ftp（NICE からは）ftp サーバ(ftp.media.nagoya-u.ac.jp)のみに接続可能です。
ftp.media.nagoya-u.ac.jp がつながらない場合は、

ftp1.media.nagoya-u.ac.jp または ftp2.media.nagoya-u.ac.jp を試してください。
(インターネットからは) 利用できません。ssh(scp)をお使い下さい。

1.2. 名古屋大学情報メディア教育センターシステムの Solaris で利用できる Workshop (コンパイラ) について

1.2.1. センター端末からの Workshop の起動は 起動メニューから行うことができます。

コマンドラインから起動できるコマンドは /opt/SUNWspro/bin にあります。(ホストによってはこのディレクトリが見えない場合があります。その場合は sv010 に rlogin してください。) その際、コンパイラ契約の関係上以下の制限があります。

シェルで C コンパイラ、FORTRAN コンパイラを利用するには以下のような環境設定をします。

コマンドサーチパス に /opt/SUNWspro を加える

(/usr/ucb より前に加える)

環境変数 LD_LIBRARY_PATH に /opt/SUNWspro/lib を加える

環境変数 LANG を無効にする

例えば C シェルを使用している場合、以下のような設定を ~/.cshrc.local に追加します。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin $path)
```

```
setenv LD_LIBRARY_PATH /opt/SUNWspro/lib:$LD_LIBRARY_PATH
```

```
unsetenv LANG
```

ただし、環境変数 LANG を無効にすると日本語オンラインマニュアルが読めません。日本語オンラインマニュアルを利用する場合は、.cshrc.local に設定を書かずに、コンパイラを使用するシェルのみで LANG を無効にしてください。この場合、コマンドラインで 'unsetenv LANG' を実行します。

1.3. 名古屋大学情報メディア教育センターシステムの利用期間について

講師と受講者が、情報メディア教育センターシステムをサマースクールで利用できる期間は次のように予定しています。

講師：平成14年8月20日～9月20日

受講者：平成14年9月 2日～9月20日

1.4. 名古屋大学情報メディア教育センターシステムのコンパイラについて

情報メディア教育センターシステムでは次のフォートランコンパイラとCコンパイラが使用できます。サマースクールで計算機実習使用する部屋は C,E 教室です。

(a) A・D(717号)・E・W 教室(日本語 Solaris2.6 H/W 5/98 SPARC)

(1) Fujitsu 版

- ・ Fujitsu Fortran Compiler4.0
- ・ Fujitsu C Compiler4.0
- ・ Fujitsu C++ Compiler4.0

(2) Sun 版

- ・ Sun WorkShop Compiler FORTRAN 4.2
- ・ Sun WorkShop Compiler C 4.2
- ・ Sun WorkShop Compiler C++ 4.2

(b) C 教室(日本語 Solaris2.6 for x86 INTEL)

(1) Sun 版

- ・ Sun WorkShop Compiler FORTRAN 4.2
- ・ Sun WorkShop Compiler C 4.2
- ・ Sun WorkShop Compiler C++ 4.2

使用例 : frt -O program.f
 frt -o execute -O program.f
 f90 -O program.f
 f90 -o execute -O program.f
 f77 -O program.f
 f77 -o execute -O program.f

1.5. コマンドラインからのパスワードの設定方法

パスワードの変更にあたっては以下の点に留意してください。

- 1.新しいパスワードは旧パスワードと 3 文字以上変っている必要があります。
- 2.パスワードの変更は頻繁におこなわないでください。変更後、パスワードが変更されるまでに最大 10 分かかります。 また、システム内の処理が確定するまで、1 時間程度は変更しないようにしてください。

注意: パスワードの変更については以下のルールに従ってください。現状では、以下のルールに従っていなくてもパスワードが変更されたように見えることがあります。

(が、実際は変更されていない)

- 6 文字以上のパスワードをつけてください。
- 2 つ以上の英文字および一つ以上の数字もしくは特殊文字を含めてください。
- ログイン名そのもの、あるいはその文字順を入れ替えたパスワードは不可

センター端末から変更する場合(UNIX と Windows/NT の構成)

- 1.Unix(Solaris)の動作しているマシンにログインします。このとき、昨年度までのアカウントとパスワードが使えます。
- 2.「端末エミュレータ」を開いて以下のコマンドを実行します。

```
/opt/thrpassop/bin/tpassset
```

ここで、を自分の ID でおきかえてください。
 例えば、アカウントが t901234h の人は、

`/opt/thrpassop/bin/tpassset t901234h`

のように入力してください。このあと、古いパスワードと新しいパスワードの入力(2 回)を求められますので、入力してください。

外部から接続する場合

telnet サーバ(telnet.media.nagoya-u.ac.jp)にログインしてください。

telnet サーバでは SSH がインストールされていますので、可能な場合はパスワード をのぞかれないように SSH を利用してください。

telnet サーバで上と同様のコマンド(`/opt/thrpassop/bin/tpassset`)を入力してください。

この方法でくりかえしパスワードを変更することができます。

以下のページからも変更できます。

<http://pass.media.nagoya-u.ac.jp/tpass/default.htm>

このページはメディアセンター端末およびリモートアクセスシステムからアクセスできます。

1.6. 実際の利用例

(1) sv010 に rlogin する。

`rlogin sv010`

(2) 講師のアカウント 02act132 のディレクトリ earthb から、プログラムファイルを受講者のディレクトリにコピーする。

`cp /mdhome/home2/02act132/earthb/earthb1.f .`

(3) Fortran プログラム earthb1.f をコンパイルする。

`frt -O earthb1.f` : 実行ファイル a.out を生成

`frt-o earthb1 -O earthb1.f` : 実行ファイル earthb1 を生成

(4) a.out (earthb1) : 実行ファイル a.out (earthb1)を実行

(5) `a.out & (earthb1 &)` : 実行ファイル a.out (earthb1)をバックグラウンドジョブとして実行

(6) `gs earthb1.ps` : PostScript file, earthb1.ps を GhostScript でプレビューする。

(7) `lpr earthb1.ps` : PostScript file, earthb1.ps をプリントする。

1.7. 更に詳細は次の URL を参照のこと

情報メディア教育センターの Homepage

<http://www.media.nagoya-u.ac.jp/>

情報メディア教育センターシステムの利用法

<http://www.media.nagoya-u.ac.jp/riyou.html>
